

レジメン名称: DBd(ダラザレックス+ボルテゾミブ+デキサメタゾン)

多発性骨髄腫

ID _____ 患者氏名 _____ 様 (性別 _____)

身長 _____ cm 体重 _____ kg 年齢 _____ 歳 体表面積 _____ m²

HBs 抗原 (+ -) HBc 抗原 (+ -) HCV 抗体 (+ -)

薬剤	投与量	投与日 1～8 コース目は 3 週間毎、9 コース目以降は 4 週間毎		
		1～3 コース目	4～8 コース目	9 コース目～
		Day 1・・8・・15・・22	Day 1・・8・・15・・22	Day 1・・・・29
ダラザレックス	16 mg/kg	↓ ↓ ↓ (毎週)	↓ (3 週毎)	↓ (4 週毎)
ボルテゾミブ (皮下注)	1.3 mg/m ² 1～8 コース目のみ	↓↓↓↓ Day1 4 8 11	↓↓↓↓ Day1 4 8 11	
デキサメタゾン	80mg/ body/週	↓↓↓↓↓↓↓↓ ダラザレックス投与日は注射、そのほか内服 1～3 コース目 Day1,2,4,5, 8,9,11,12, 15 4～8 コース目 Day1,2,4,5, 8,9,11,12,	↓↓↓↓↓↓↓↓	↓ Day1 20mg(注射)

75 歳を超える又は過少体重 (BMI 18.5kg/m² 未満) の患者ではデキサメタゾンを 20mg/週で投与することも可。その際はダラザレックス投与前に 20mg を投与。

レジメンオーダー以外に必要な処方

レスタミン (10) 5 錠、カロナール (200) 5 錠、モンテルカスト (10) 1 錠 ダラザレックス投与 1～3 時間前に
デキサメタゾン 20mg (内服)

1～3 コース目 day 2, 4, 5, 9, 11, 12

4～8 コース目 day 2, 4, 5, 8, 9, 11, 12

必要時: アシクロビル、フェブリク、ダイフェン

注意事項

ダラザレックス: インフュージョンリアクション (気管支痙攣, 蕁麻疹, 低血圧, 意識消失, ショックなど) に注意。

ダラザレックスのルートにはフィルター付き輸液セット (ニプロフィルターセット STFPG-20BRCG) 使用

クームス試験に影響を与えるため、ダラザレックスの投与をすることを検査科へ連絡してください。

ボルテゾミブ

調製後、8 時間以内に使用すること。

皮下投与の部位: 左右の腹部等に交互に注射するなど、前回と同じ部位への投与は避けること (皮下脂肪組織の萎縮や硬結をきたして、薬液の吸収が悪くなることもある。また皮膚の炎症などを起こす可能性が高くなる)



ダラザレックス投与方法						
1	(ケモセーフ点滴セット不要) フィルター付きセットを使用 生食 100mL、メインルートをプライミング、ゆっくり (ルートキープ)					
2	レスタミン (10) 5 錠、カロナール (200) 5 錠、モンテルカスト (10) 1 錠 内服					
3	デキサート(3.3 mg/1.0mL) 6A、生食 50mL、15 分で メインルートから投与					
4	生食 100mL メインルートから、ゆっくり、ルートキープ 60 分 残破棄可					
5	ダラザレックス mg、生食 適量、全量：初回 1000 mL、2 回目以降 500 mL メインルートから 速度変更時に体温、脈拍、血圧測定					
	点滴速度	全量	0～1 時間	1～2 時間	2～3 時間	3 時間目以降
	初回 (約 6 時間 30 分)	1000 mL	50 mL/h	100 mL/h	150 mL/h	200 mL/h
	2 回目 (約 4 時間)	500 mL				
	3 回目以降 (約 3 時間 15 分)	500 mL	100 mL/h	150 mL/h	200 mL/h	
	初回投与開始時から 3 時間以内に infusion reaction が認められなかった場合、500mL とすることができる。					
初回および 2 回目投与時の最終速度が 100mL/h 以上で infusion reaction が認められなかった場合、100mL/h から開始することができる。						
6	生食 100mL メインルートから、ゆっくり、ウォッシュアウト 適宜途中終了可、残は破棄					

ボルテゾミブ投与方法	
1	(臨床試験ではダラザレックスの後に投与されていました) ボルテゾミブ _____ mg, 皮下注 皮下注の場合：1V (3mg) あたり生食 1.2mL で溶解し、適量を使用